

平成25年度 学校自己評価表

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり
-------------------	--	----------	--

評価項目	現状	具体項目	具体目標	具体方策	中間評価	評価に対するコメント	最終評価
1 確かな学力の育成	昨年まで掲げていた「基礎的な学力の向上」は、学校改革の取組によって、この2年で国公立の四大や短大への進学実績が現れたことで、次なるステージへ向けた取組の転換が求められている。中でも自ら考え発表する力を育成することが重要な課題である。	学力の定着	授業時間の確保	授業カット・短縮授業の削減	B	必要最小限度にとどめており、概ね達成できている。	B
			授業改善	『学び』創造委員会での検討	B	育成の目標となるコンセプトを明確にして進めることができた。	B
			系列の充実	授業公開、授業評価の実践	B	特定の授業を公示する形で多くの教員が積極的に授業公開に取り組んだ。授業アンケートは全教員が計画通り実施した。	B
				学習委員会作業部会での検討	B	検討作業を完了し、各系列ごとの概要、目指す生徒像、具体的取組を明示することができた。	B
				保育施設実習・介護施設実習の実施	B	生徒の実習態度もよく、各施設から好評を得た。	A
				野外(体育)実習の実施	B	計画どおりに実施できた。	B
				英語での多読指導の導入	B	計画どおり実施し、英語を読むことの動機付けになった。	B
			発展的学力への支援	講習の実施と内容の充実	B	計画どおり実施。希望者には個別対応もし、進学結果に結びついた。	B
			資格取得の推進	校内での各種検定試験の実施	B	保育検定は各種目1級を意欲的に受検、フラワー装飾3級取得者も出た。	A
		思考力、判断力、表現力の向上	テーマ学習の充実	有識者講演会、社会人講話の実施	B	予定どおり実施、学習を深めるための動機付けになった。	B
			プレテーマ学習の導入	学習成果発表会の開催	B	年間を通しての指導と事前準備・当日の運営を連携して実施できた。来場者からの評価も高かった。	A
			探求的学習の導入	『学び』創造委員会からの提示と実践	B	ジグソー理論による授業実践の他、研究授業を行った。	A
			小論文指導の向上	外部講師による研修会と校内研修会の実施	B	校内の研修会のみであったがその後の生徒指導に活かし、成果が出た。	B
			表現力の育成	デッサン講習会の開催	B	計画どおり実施し、参加者の中から鳥取県展での奨励賞受賞デッサンコンクール優秀賞受賞が出た。	B
				国語「自己表現」での社会人講師の導入	B	計画どおり実施し、表現指導の充実が図れた。	B
		困り感のある生徒の指導	生徒情報の共有	教育相談部主催の情報交換会の開催	B	4月・10月の二度開催し、各学年団と情報の共有を図った。	B
			特別支援体制の実動	特別支援委員会の開催と適切な対応	B	支援委員会とケース会議を開き、適切な対応を図った。	B
2 豊かな人間性の育成	ここ数年重点的に取り組んできた「基本的生活習慣の確立」は特に遅刻に対する指導に力を入れた結果、着実に減少傾向にあり、今後もうさらに継続する必要がある。また、人間性を高めるためのさまざまな活動への参加は今後益々重要になってきている。	規律指導	遅刻者数の削減(前年度比50%減)	朝の校門指導の実践	B	毎日実践しているが、目標までの削減は出来なかった。	B
			正しい服装の着こなし	生徒会と連携した遅刻防止週間の取り組み	C	遅刻防止週間を取り組めなかった	C
				着こなしセミナーの実施	B	計画どおり実施した。	B
				服装指導と生活指導委員会の機能的運動	C	再指導の生徒への指導が不十分であった。	C
		あいさつ習慣の定着		マナーアップキャンペーン、あいさつ運動の展開	B	「マナーアップ運動」など地域の方々とタイアップした活動ができた。	B
			環境教育	環境に対する関心の育成	B	各活動は着実に遂行された。	B
		生徒会活動と部活動の活性化	生徒会主催行事満足度80%以上	執行部会を多く持たせ、自主的な活動の促進	B	毎週部会を開催し、行事などへの主体的な取り組みができた。学校祭についてのアンケートは88%が満足と回答した。	B
				特別支援学校との交流活動	B	計画どおり実施し、参加生徒にとっては実りのある交流となった。	B
			部活動加入率80%以上	分掌・担任の連携によるキャリア教育からの加入促進	B	部活動加入率は86.5%であった。部活の大切さをさらにアピールする必要がある。	B
		読書のすすめ	読書の機会の確保	朝読書の継続とサポート体制の充実	B	おおむね良好に実施できたが、サポート体制の充実に力を入れる必要がある。	B
		国際理解教育	海外姉妹校交流の促進	釜山デザイン高校からの研修受入れ		今年度は中止	
				アメリカSTA高校への研修派遣	B	派遣に向け、生徒は勉強会に参加し、意欲的に準備を進めている。	B

評価基準 A: 目的・目標を達成した B: ほぼ計画(予定)どおり推進している C: 取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D: 一層の(新たな)取組が必要

平成25年度 学校自己評価表

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり
-------------------	--	----------	--

評価項目	現状	具体項目	具体目標	具体方策	中間評価	評価に対するコメント	最終評価
3 自己実現のための進路指導の充実	「進路実現」において安易なものから、身の丈の少し上にチャレンジする傾向が現れてきたことで、生徒の可能性をきちんと把握し伸ばす指導力が求められている。	キャリア教育の推進	産社の取組みの充実	学びEXPO(社会人講話、学校・事業所見学)の展開	B	予定どおり実施できた。高校で学ぶ心構えができた。	B
			進路探究心の育成	進路講演会の実施	A	予定どおり実施、生徒の進路意識の向上や進路決定に役立った。	A
		進路指導の充実	適切な科目選択指導	十分な面接時間の確保	B	面接週間を長めに設定し、時間を確保した。	B
			教員の指導力向上	先進校視察の実施	B	予定どおり実施した。得た情報を有効に活用できた。	B
			情報発信	進路だよりの刊行	B	発行したが、さらに有用な情報の発信に努める。	B
			チャレンジする姿勢づくり	校外模試の実施と受験の促進	B	受験者が多少減ったが予定どおり実施。	B
			組織的な進路指導体制の構築	学習委員会の活用	B	模試結果等を基に分析検討を行った。	B
				進路情報交換会の開催と活用	B	情報交換には有益だったが、活用については課題がある。	B
4 地域との連携による学校づくり	「地域貢献活動」は自分たちの活動を発信するだけでなく、地域の人々との関わりを持ち、地域への感謝を表す場となる必要がある。	地域貢献	地域の美化	コスモスロード、通学路清掃の実施	A	6月末にPTAと生徒が一体となり、コスモスロードの整備を行った。秋にはコスモスが一面によく咲いた。	A
		情報発信	教育活動の発信	一層見やすいホームページの作成	B	部活動や校内の取り組みなどを、見易さに留意して掲載できた。一部に古い情報があり、修正が必要である。	B
			芸術教育の発信	総合美術展の開催	B	320人の来場者があり、非常勤講師の協力を得て1・2年次生に系列に関わる鑑賞教育ができた。	B
		近隣の公民館、中学校、施設との連携	文化部活動アピール	パフォーミングアーツの開催(演劇・ダンス・吹奏楽)	B	3月の開催に向けて、準備を進めている。	B
				ハイホットダンスフェスティバルの開催(ダンス)	B	小学生から大学生まで本校含め9団体の参加があり地域に大きく貢献できた。多くの方々に大変喜んでいただいた。	B
				成実公民館祭、尚徳地区生き生きフェスタ等への参加	B	成実公民館祭に茶道部、生き生きフェスタには社研部の参加があった。吹奏楽部は全国植樹祭記念式典、サマープラスコンサート、総合音楽会、中海夕暮れコンサートへの参加や大和保育園への訪問演奏を行った。	B
				中学校との連携	B	西部地区のほとんどの中学校から25名の参加があった。総合学科と本校の特色を知ってもらい良い機会になった。	B